

知財 AI 支援ツール 社内導入に関する情報システム部門 向け説明資料

Manus

1. はじめに

本資料は、社内の知的財産業務の効率化および高度化を目的として導入を検討している3つのAI支援ツール（TOKKYO.AI、Summaria、Genzo AI）について、情報システム部門の皆様には仕組みやセキュリティ対策をご理解いただき、導入の許可を得るための説明資料です。

近年、知的財産業務において生成AIを活用することで、特許調査の迅速化や明細書作成の効率化が飛躍的に進んでいます。一方で、未公開の特許情報や企業のR&D戦略に関わる機密情報を扱うため、情報漏洩リスクやAIの学習データへの二次利用に対する懸念が存在します。本資料では、各ツールがこれらのセキュリティ課題に対してどのような技術的仕組みと対策を講じているかを詳細に解説します。

2. 各ツールの概要と仕組み

2.1 TOKKYO.AI (MyTokkyo.Ai)

TOKKYO.AIは、リーガルテック株式会社が提供する日本初の特許専用AIエージェント搭載プラットフォームです。主に特許調査、類似特許検索、発明提案書の自動生成などの機能を提供します [1]。

技術的仕組み 本ツールは、独自のビッグデータ処理技術「Xシステム」を採用しており、大量の特許データを高速かつスケーラブルに処理することが可能です。バックエンドにはChatGPT APIなどの生成AIモデルを活用し、特許業務に特化したチューニングが施されています。ユーザーはAIエージェント（ChatTokkyo）と対話しながら、自然言語による直感的な特許検索や文章生成を行うことができます [2]。

2.2 Summaria (サマリア)

Summaria は、パテント・インテグレーション株式会社が提供する特許文書の読解支援 AI アシスタントです。弁理士が開発した実務特化型のツールであり、特許文書の要約作成、用語抽出、侵害予防調査、拒絶理由通知への対応支援など、多岐にわたる機能を提供します [3]。

技術的仕組み 本ツールは、Azure OpenAI Service、OpenAI API、Amazon Bedrock、Anthropic Claude API など、複数の高度な AI モデルをバックエンドで活用しています。ユーザーが入力した指示文や特許文書の一部をこれらの API に送信し、高度な自然言語処理によって要約や対比結果を生成します。特許文書の複雑な構造や専門用語を正確に解釈するための独自のプロンプトエンジニアリングが組み込まれています [4]。

2.3 Genzo AI

Genzo AI は、株式会社島津製作所の知財 AI 子会社である株式会社 Genzo AI が提供する次世代知財業務自動化プラットフォームです。島津製作所の知財部門が自社開発・運用してきたシステムを外販化したものであり、実務直結型の設計が特徴です [5]。

技術的仕組み 本ツールは、OpenAI API (ChatGPT) および Google Gemini API をバックエンドに使用しています。届出・出願、翻訳、中間処理、先行文献調査、FTO (侵害予防)、契約書レビューの 6 つのモジュールで構成されており、島津製作所の知財実務で磨き上げられたカスタムプロンプトが実装されています。AI と人が協働するプロセスを前提としており、AI の提案を実務者が確認・修正するワークフローが構築されています [6]。

3. セキュリティおよびデータ保護の取り組み

情報システム部門において最も懸念される「機密情報の保護」と「AI による学習利用」について、各ツールの対策状況を整理しました。

3.1 ツール別セキュリティ比較表

項目	TOKKYO.AI	Summaria	Genzo AI
データ保存場所	ユーザー専用のプライベート環境	国内 AWS サーバー	国内 AWS サーバー
AI 学習への利用	二次利用なし	利用規約により学習利用禁止	契約上禁止（学習・二次利用不可）
運営者のアクセス	専用環境により制限	運営側からの閲覧不可	AWS 権限設計によりアクセス不可
データ削除	専用環境内で管理	ユーザー操作による削除可能	ユーザー主導で完全削除可能
検索クエリの扱い	社外に流出しない設計	API 送信時に匿名化	国内 AWS に保存、外部 AI には一時送信のみ

3.2 TOKKYO.AI のセキュリティ詳細

TOKKYO.AI の最大の特徴は、**「プライベート AI 特許」**という概念に基づき、ユーザー専用の環境が提供される点です。特許検索のクエリ（検索キーワードや文章）には、企業の研究開発の方向性や新製品のアイデアなど、極めて機密性の高い情報が含まれます。本ツールでは、検索履歴などのデータが専用環境外に出ることはなく、二次利用も一切行われません。これにより、検索クエリの漏洩リスクを根本から排除しています [2]。

3.3 Summaria のセキュリティ詳細

Summaria では、入力された情報は AWS 上の同社管理データベースに機密性を保った状態で保存されます。外部の AI サービス（Azure OpenAI 等）の API を利用する際、指示文や特許文書の一部が送信されますが、ユーザーを特定できる情報（ユーザーID やメールアドレス等）は提供されず、匿名化された状態で処理されます。また、各 AI ベンダーの利用規約において、API 経由で送信されたデータはモデルの学習や改善に使用されないことが明記されています。したがって、未出願の特許明細書を読み込ませた場合でも、新規性を喪失したり第三者に公開されたりするリスクはありません [4]。

3.4 Genzo AI のセキュリティ詳細

Genzo AI は、データ保護と透明性を最優先に設計されています。OpenAI 社および Google 社との契約において、入力情報を AI モデルの学習やいかなる二次利用にも使用しないことが義務付けられています。不正利用防止の目的で送信データが最大 30 日間保持される場合がありますが、その後は自動的に削除されます。また、プロジェクトデータや処理結果はすべて国内の AWS サーバーに保存され、AI ベンダーのサーバーには残りません。さらに、AWS の厳格なアクセス権限設計により、Genzo AI の運営担当者であっても顧客データにアクセスできない仕組みが構築されています [6]。

4. 導入メリットと情報システム部門への依頼事項

4.1 導入による期待効果

これらの AI ツールを導入することで、知財部門および研究開発部門において以下の効果が期待できます。

- 1 **業務効率の大幅な向上:** 従来手作業で行っていた先行技術調査や明細書ドラフト作成の時間を大幅に短縮し、コア業務へのリソース集中が可能になります。
- 2 **調査精度の向上:** AI の自然言語処理能力により、キーワード検索では見落としがちな類似特許を文脈から高精度に検出できます。
- 3 **コスト削減:** 外部の特許事務所への委託費用や、調査にかかる人件費の削減に寄与します（例：Genzo AI のベースシステムでは年間 8000 万円のコスト削減実績あり [5]）。

4.2 情報システム部門への依頼事項

各ツールは SaaS 型（クラウドサービス）として提供されるため、社内インフラの大規模な改修は不要です。導入にあたり、以下の点についてご確認とご承認をお願いいたします。

- **クラウドサービスの利用許可:** 各ツールが利用するドメインおよび API エンドポイントへの社内ネットワークからのアクセス許可。
- **セキュリティ評価の実施:** 本資料に記載された各ツールのセキュリティ対策（AI 学習非利用、データ保存場所、アクセス制御）が、当社の情報セキュリティポリシーの要件を満たしているかの評価。
- **利用ガイドラインの策定支援:** 機密情報の入力に関する社内ルールの策定および利用者教育へのご協力。

5. まとめ

TOKKYO.AI、Summaria、Genzo AI の 3 ツールは、いずれもエンタープライズ水準の厳格なセキュリティ対策を講じており、入力データが AI の学習に利用されるリスクや外部へ漏洩するリスクは極めて低い設計となっています。特に、API 経由でのデータ処理における「オプトアウト（学習非利用）」の徹底や、国内サーバーでのデータ管理、運営者からのアクセス遮断など、情報システム部門が懸念するポイントに対して明確な技術的・契約的担保が用意されています。

本資料の内容をご検討いただき、社内導入に向けた前向きなご判断を賜りますようお願い申し上げます。

参考文献

- [1] リーガルテック株式会社. "TokkyoAi（特許 AI エージェントシステム）徹底調査". <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/6165e9c82c81991d8848.pdf> [2]
Tokkyo.Ai 株式会社. "Tokkyo.Ai プライベート AI 特許". <https://www.tokkyo.ai/pvt/> [3]
パテント・インテグレーション株式会社. "サマリア(Summaria) | 特許文書読解支援サービス". <https://patent-i.com/summaria/> [4] パテント・インテグレーション株式会社. "よくあるご質問(セキュリティ関連)". <https://patent-i.com/summaria/manual/faq> [5]
ITmedia. "年間 8000 万円のコストを削減した知財業務自動化 AI を外販". <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2604/02/news040.html> [6] 株式会社 Genzo AI. "データ保護の取り組み". <https://www.genzo-ai.co.jp/security.html>